

「サイちゃん通信」

西大寺の情報を発信していきます。情報提供もお待ちしております。

【発行元】

岡山商工会議所西大寺支所
岡山市東区西大寺中3丁目6-15
TEL086-942-0101
FAX086-942-0103

秋だ！行楽だ！
くもくもく！
くもくもく！

暑かった夏も終わりを告げ、ようやく気持ちのいい季節になりました。寒くなる前にちょっとお出掛けしませんか。

今回ご紹介するのは、話題の『瀬戸内国際芸術祭2010』が開催された「犬島」。

国内はもとより世界中から観光客が訪れています。こんな身近にあるんですから、是非、現代アートと島とのコラボレーションを体感してみましょう！

STEP① そもそも犬島とは？

古くは、花崗岩の採石で栄え、その石は大阪城など名だたる建造物の礎に。明治42年には銅の精錬所も創業しましたが、10年ほどで閉鎖。採石も下火になり、今では島民50人ほどの静かな島に。しかし平成19年には、精錬所跡が近代化産業遺産に認定。平成20年には、美術館(犬島アートプロジェクト「精錬所」)もでき、新たなスタートを切っています。

STEP②

いざ犬島へ！



運賃 大人300円(片道)
【P有り 1日500円】

宝伝 ↔ 犬島
定期船のりば

島へは、宝伝港から高速旅客船で約10分。デッキに座ると気持ちのいい風が吹き、お出掛け気分を盛り上げてくれます。

まずは目玉の「精錬所」へ。敷地内には上の方が欠けた煙突や、黒いレンガ積み壁の壁。ちょっと日本ではないような感じです。建物の中には、不思議な回廊など3つのアート。ガイドの方が説明してくれるお陰で、な～んとなくわかったような気がします。



STEP③ 家プロジェクト

次は、犬島の集落を散策しながら、家プロジェクトへ。電飾で日の丸を模したアートなど4つが点在。昔ながらの民家の隣の一軒家のような建物の中に展示されていたりして、不思議な感覚になりますが、次第に慣れます。

作品は、外の景色を借景にしていたりと、見る時々で印象も変わります。島とアートが一体となっているんですね。

STEP④

犬島を満喫

少し疲れたらチケットセンターでひと休み。海を眺めながら、島ならではのたこめしやしそシロップかき氷などが楽しめます。

現代アートって、よくわからないわ～という方も、深く考えなくて、不思議なものを見て、知らない町を歩いて、美味しいものを食べる。そんなお手軽な芸術の秋を楽しみましょう！！

犬島は、直島などの他の島々に比べ、作品数も少ないので、半日もあれば十分です。

チケット



チケットセンター

オリジナルグッズの販売も。この他にも島内には食事処などがあります。
☆芸術祭後も犬島のアートはそのまま残りますので、ご心配なく！

西大寺の逸品

街のあらゆるいいモノを紹介！



“衣類の修理ならなんでもおまかせ”



接着剤「アイロンピタット」と出会い この業界へ



店内で作業する川口社長

お気に入りの服なのに、虫食い・たばこの焦げ穴などで泣く泣くダンスのこやしになっていませんか？

ドイツで開発された接着剤を使用し、川口社長が昭和52年、独自に考案した方法で修復。

一般的な方法と比べ、費用・期間も大幅に軽減。大手のクリーニング店が持ち込みをするほどの腕前です。

店名の「グラッセ」はイタリア語の「グラッチェ(ありがとう)」から。お客様の喜ぶ姿を励みに今日も頑張ります。

お店では発明家でもあるご主人お手製の水飲み鳥やゴミ拾い器具など楽しい品々もお出迎え。それも楽しみにご来店ください。

グラッセ衣類修理センター

可知5-134-23

TEL086-942-0022

営業時間 9:00～19:00

定休日 日曜・月曜日

となりのキラリ☆さん

おとくら しんすけ

～西大寺でキラリと光る人を紹介していきます～

居酒屋経営 乙倉 慎佐さん (32)

西大寺バスターミナル近くに、黒塗りの粋なお店ができたのをご存知ですか？それは、若いご主人が頑張る『居酒屋旬彩 しんすけ』。

釣り好きから魚料理に興味を持ち、大阪北新地の割烹で7年修行し、居酒屋での経験を積み、この7月に念願のお店をオープン。高知直送の活きのいい魚も用意し、魚料理には特に力が入ります。「何よりもお客さんとのやりとりが好き。」と、カウンターにもこだわります。

料理も経理も自分でする乙倉さん。周囲の支えがあってこそ、と今日も仕込みに余念がありません。

今後も個室やいけすを作りたいと夢が膨らみます。



旬彩しんすけ

西大寺中2-5-10

TEL086-943-3232

【営業時間】

火曜～土曜 17:00～翌2:00(OS1:00)

日曜のみ 17:00～12:00(OS11:00)

定休日 月曜日

西大寺の史跡



絵馬

かのう えいちょう えま

— 狩野永朝の絵馬 —

前回は西大寺観音院本堂の屋根瓦にまつわるお話でしたが、今回は少し視線を下げて天井下を見てみましょう。

宝木(しんぎ)が投下される御福窓(ごふくまど)の東側に、およそ3枚分もの大きな絵馬が掲げられています。

作者は狩野派の絵師 狩野永朝。明治10年(1877年)の作品で、岡山市の重要文化財に指定されています。

絵馬には、本堂付近で揉み合うハダカの群衆を中心に、風呂で暖をとる者、洋装の警官や四国巡礼の旅人、行商人などが描かれ、明治初期の習俗慣習を知ることができます。

ほかにも裕福な人たちが仮設小屋で宴会を楽しむ様子や、仁王門前には易者の姿も見え、賑わう街の様子がうかがえます。

熱気に包まれた迫力ある当時の会陽を絵馬が語っているようです。



本堂大床